

## 2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

### (1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取組み）における44項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表2-1 44項目（施策）の満足度ランキング

平均得点69.6点

順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上 の変動
1位	(1位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	78.0	→	
2位	(13位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	77.2	↑	△
3位	(2位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	76.6	↘	
4位	(3位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	76.0	↘	
5位	(5位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	74.8	→	
6位	(8位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	74.5	→	
7位	(4位)	横断的取組	健康管理	73.8	↘	
8位	(11位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	73.0	→	
9位	(12位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	72.8	→	
10位	(7位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	72.1	↘	
11位	(10位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	71.8	↘	
11位	(16位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	71.8	→	
13位	(31位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	71.3	↑	△
14位	(19位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	71.2	→	
15位	(6位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	70.8	↘	
16位	(9位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	70.6	↘	
17位	(13位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	70.5	↘	
17位	(13位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	70.5	↘	
19位	(25位)	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	70.3	→	
20位	(23位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	70.0	→	
21位	(29位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	69.6	→	
22位	(17位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	69.4	↘	
22位	(28位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	69.4	→	
24位	(31位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	69.2	→	
25位	(22位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	69.0	↘	
25位	(25位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	69.0	→	
27位	(21位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	68.7	↘	
28位	(36位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	68.5	→	
28位	(35位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	68.5	→	
30位	(30位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	68.4	→	
31位	(20位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	68.3	↓	▼
32位	(18位)	横断的取組	風評の払しょく	67.9	↓	▼
33位	(25位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	67.5	↘	
34位	(24位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	67.0	↓	▼
34位	(33位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	67.0	↘	
36位	(37位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	65.8	→	
37位	(39位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	65.6	→	
38位	(40位)	基盤的取組	行政経営	65.4	→	
39位	(42位)	基盤的取組	SDGs	65.2	→	
40位	(34位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	64.6	↘	
41位	(38位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	63.8	↘	
42位	(40位)	II. 交流・観光の未来	観光	62.7	↘	
43位	(43位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	61.7	→	
44位	(44位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	61.3	→	

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点、【わからない】に0点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました（表2-1参照）。

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{【よい】} \times 100 + \text{【どちらかといえばよい】} \times 80 \\ & + \text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \text{【不満】} \times 40 + \text{【わからない】} \times 0) \\ & \div \text{「わからない」と無回答者を除いた} n \text{ 数} \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」26人、「どちらかといえばよい」137人、  
「どちらかといえば不満」113人、「不満」43人、「わからない」393人ですと、

$$\frac{26 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 137 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 113 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 43 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 393 \text{ 人} \times 0 \text{ 点}}{319 \text{ 人}}$$

≒69.2

※平均得点=69.2点となります。

※2019年度から「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

## — 満足度の上位3つは、「医療」「除去土壌等の搬出」

「音楽のまちづくり」—

### 【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「医療」「除去土壌等の搬出」「音楽のまちづくり」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると2013年度以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「医療」については、人口に対する病床数や医師等が全国平均を上回っていること、また、「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から13年経過し、市民の認知度が高いことなどが、満足度につながっていると考えられます。

「除去土壌等の搬出」については、敷地内に保管されている除去土壌等を掘り起こし、袋詰めしたものを積込場へ集約する市の搬出作業と並行して、国が集約した積込場から中間貯蔵施設への輸送をしており、2021年度に作業が概ね完了する見込みであることが、高い満足度につながっていると考えられます。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「健康づくり」「青少年健全育成」「乳幼児教育・家庭教育」です。

これらの項目に関連する本市の主な取組みは、次のとおりです。

「健康づくり」では、健康づくりに取り組んでポイントを貯めると、福島県内1,700店舗以上の協力店で、グルメやショッピングなどお得な特典が使える「ふくしま健民カード」を発行する「こおりやま生きいき健康ポイント事業」を実施し、気軽に、無理なく、楽しく継続できる健康づくりを推進しています。

「青少年健全育成」では、郡山市青少年健全育成推進大会を開催し、青少年を取り巻く現状等に対する認識を深め、家庭における親のあり方や地域社会における大人のあり方について考え、家庭、学校、地域社会が相互に連携しながら、青少年の健全育成活動に取り組む、青少年健全育成市民総ぐるみ運動を推進しています。

「乳幼児教育・家庭教育」では、『郡山市まちづくり基本指針』を基盤とし、SDGsやセーフコミュニティ、「郡山市子ども条例」や「連携中枢都市圏」など本市独自の視点等を取り入れた『第2期郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン』を策定し、すべての子どもの健やかな育ちと子育て中の保護者等を支援できるよう、様々な子育て支援施策を総合的かつ計画的に推進しています。

また、7分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「横断的取組」の73.0点、次いで「学び育む子どもたちの未来」の71.9点、「誰もが地域で輝く未来」の70.9点となっています。

表 2-2 7分野別の満足度ランキング

順位	分野	点数
1位	VI. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	73.0
2位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	71.9
3位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	70.9
4位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	69.1
5位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	68.5
6位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	67.3
7位	VII. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	66.3

参考までに、過去 10 年間の満足度上位 3 つは下表のとおりです。

表 2-3 10年間の満足度上位 3 項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
2021	医療	除去土壌等の搬出	音楽のまちづくり
2020	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
2015	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
2014	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習
2013	生涯学習	医療	音楽都市こおりやま
2012	医療体制	生活衛生体制	保健予防体制

## (2) これからの取組み重要度結果一覧

まちづくり（取組み）における44項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表2-4 44項目（施策）の重要度ランキング

平均割合12.0%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の 変動	10位以上 の変動
1位	(4位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	34.7	➡	
2位	(1位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	34.4	➡	
3位	(5位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	32.4	➡	
4位	(2位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	26.6	➡	
5位	(7位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	24.9	➡	
6位	(3位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	23.7	➡	
7位	(8位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	20.3	➡	
8位	(9位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	17.6	➡	
9位	(6位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	16.3	➡	
10位	(20位)	横断的取組	風評の払しょく	15.9	⬆	△
11位	(12位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	15.2	➡	
12位	(11位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	14.7	➡	
13位	(10位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	14.1	➡	
14位	(14位)	横断的取組	健康管理	13.6	➡	
15位	(25位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	12.3	⬆	△
16位	(16位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	11.9	➡	
16位	(25位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	11.9	➡	
18位	(13位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	11.6	➡	
19位	(34位)	基盤的取組	SDGs	11.3	⬆	△
20位	(25位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	11.2	➡	
21位	(21位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	10.5	➡	
22位	(19位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	9.7	➡	
23位	(24位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	9.3	➡	
24位	(22位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	8.7	➡	
25位	(18位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	8.4	➡	
26位	(36位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	3R(資源の有効利用)	8.2	⬆	△
27位	(16位)	基盤的取組	行政経営	7.7	⬆	▼
28位	(28位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	起業支援	7.6	➡	
28位	(29位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	7.6	➡	
30位	(35位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	7.5	➡	
31位	(32位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	7.3	➡	
32位	(22位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	7.2	➡	
33位	(31位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	7.1	➡	
34位	(15位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	5.8	⬆	▼
35位	(30位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	5.4	➡	
36位	(38位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	5.1	➡	
36位	(37位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	5.1	➡	
36位	(39位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	5.1	➡	
39位	(33位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	4.6	➡	
40位	(41位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	3.5	➡	
41位	(43位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	3.3	➡	
42位	(44位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.6	➡	
43位	(41位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	2.4	➡	
44位	(40位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	1.9	➡	

平均より高い

平均より低い

平均割合（回答率）が高いほど、「重要度」が高い施策・事業です。

平均割合（回答率）の算出式、算出例を以下に掲載しました。

**※1：平均割合（回答率）の算出式**

$(\text{回答数}) \div n \text{ 数} \times 100\%$

**※2：平均割合（回答率）の算出例**

例えば、「子育て」251人ですと、

$251 \text{ 人} \div 723 \text{ 人} \times 100\% \doteq 34.7$

**※平均割合（回答率）=34.7%となります。**

— 重要度の上位3つは、「子育て」「雇用・就労」「高齢者福祉」 —

**【全体結果】**

現在のまちづくりに対する重要度については、「子育て」「雇用・就労」「高齢者福祉」が上位となっています。

「雇用・就労」については、2019年から国が継続的に推進している「働き方改革」による社会構造への影響や近年の大雨等の自然災害や新型コロナウイルス感染症が及ぼす地域産業への影響から、昨年度に引き続き関心度及び重要度の高さが持続しているものと考えられます。

また、「10年間の重要度上位3項目」において、「高齢者福祉」は2013年度から、「子育て」は2014年度から、ほぼ毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「医療」「交通・道路」「計画的な都市づくり」「風評の払しょく」です。

「医療」については、新型コロナウイルス感染症の影響によって、医師不足、医療体制への不安など、医療分野への関心が高まったためと考えられます。

「交通・道路」「計画的な都市づくり」では、高齢者のための公共交通の充実や渋滞緩和や安全のための道路の整備、近年多発する水害被害等への懸念から、安全安心なまちづくりに向けた取組みへの期待が高まりつつあるものと考えられます。

「風評の払しょく」については、土壌の搬出等が進み、住環境は整ってきているが、未だ風評被害がなくなることから、風評への対応や郡山産品の安全性のPR、販路の拡大及び観光誘客等が求められていると考えられます。

また、7分野の重要度を比較すると、最も重要度が高かった分野は、「学び育む子どもたちの未来」の16.7%、次いで、満足度においては比較的低い分野の「産業・仕事の未来」の15.4%となっており、重点的に取り組むべき分野といえます。

表 2-5 7分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率(%)
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	16.7
2位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	15.4
3位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	12.5
4位	Ⅵ. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	11.8
5位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	10.6
6位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	9.3
7位	Ⅶ. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	7.0

参考までに、過去10年間の重要度上位3つは下表のとおりです。

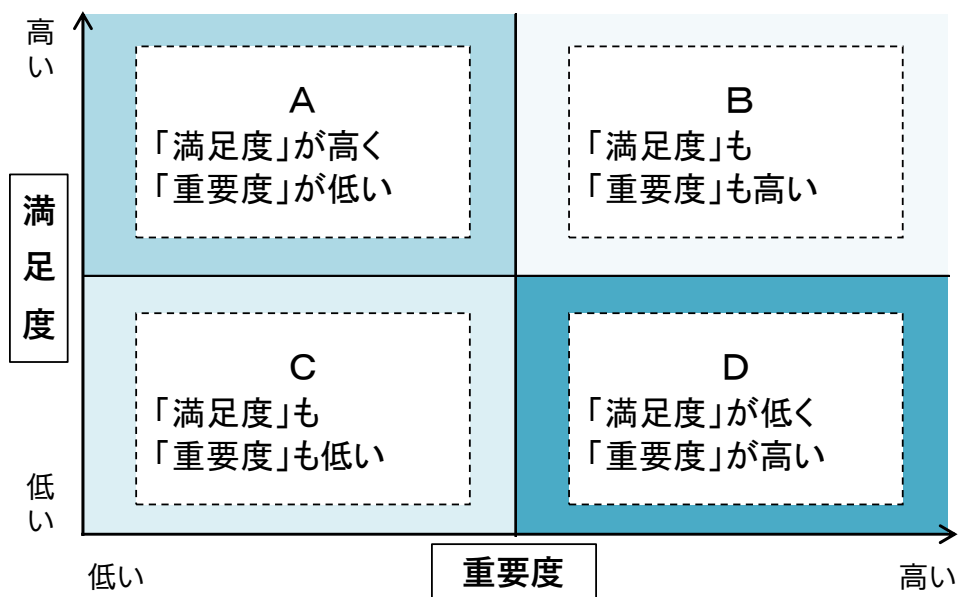
表 2-6 10年間の重要度上位3項目

年度 \ 順位	1位	2位	3位
2021	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2020	雇用・就労	防災	学校教育
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て
2015	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
2014	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育
2013	除染	高齢者・障がい者福祉	学校教育
2012	医療体制	生活環境	保健予防体制
2011	生活環境	医療体制	ごみ対策

### (3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取組み）における 44 項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては前出 20 頁を、重要度平均割合の算出方法につきましては前出 24 頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



#### **A：維持領域**

重要度は低いが満足度が高い取組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

#### **B：重要維持領域**

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

#### **C：要検討領域**

重要度も満足度も低い取組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

#### **D：重要取組領域**

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取組みを進める必要がある項目（施策）です。

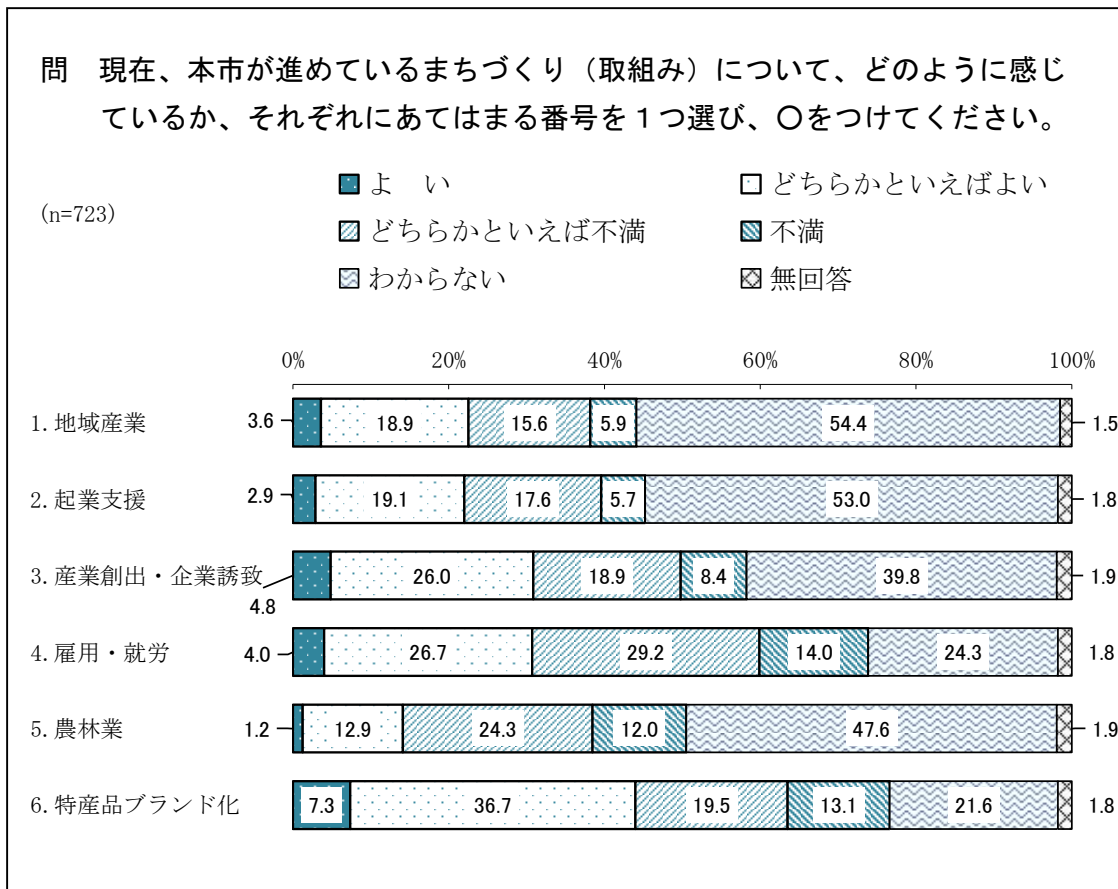
※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。





#### (4) 分野別属性別満足度結果

##### ①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

#### 【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（44.0%）でした。以下、『3. 産業創出・企業誘致』（30.8%）、『4. 雇用・就労』（30.7%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』（43.2%）でした。以下、『5. 農林業』（36.4%）、『6. 特産品ブランド化』（32.6%）がそれぞれ3割台となっており、『6. 特産品ブランド化』、『4. 雇用・就労』については評価が分かれる結果となっています。

また、「わからない」の割合が『1. 地域産業』（54.4%）と『2. 起業支援』（53.0%）で半数以上を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

市特産品の「鯉」や郡山産米「あさか舞」、果樹農業の6次産業化による郡山産ワインの誕生など、風評の払しょくに向けた取組みが評価される一方、市民への浸透や全国的な知名度の獲得を目指した、更なる施策の推進が求められています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 2-2 参照）。

平均得点をみると、『6. 特産品ブランド化』が 70.0 点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』（61.3 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを以下に掲載しました。（表 2-7 参照）

図 2-2 産業・仕事の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

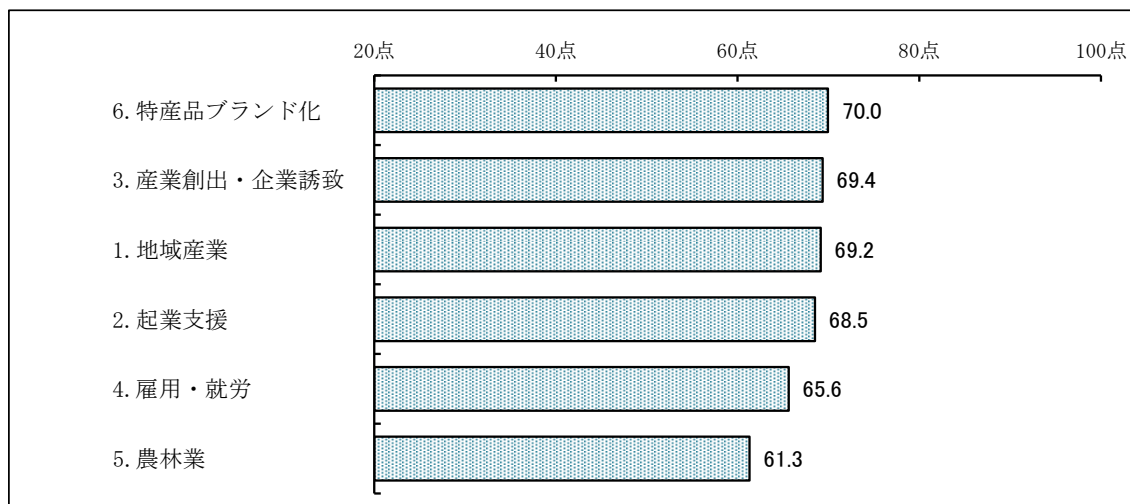
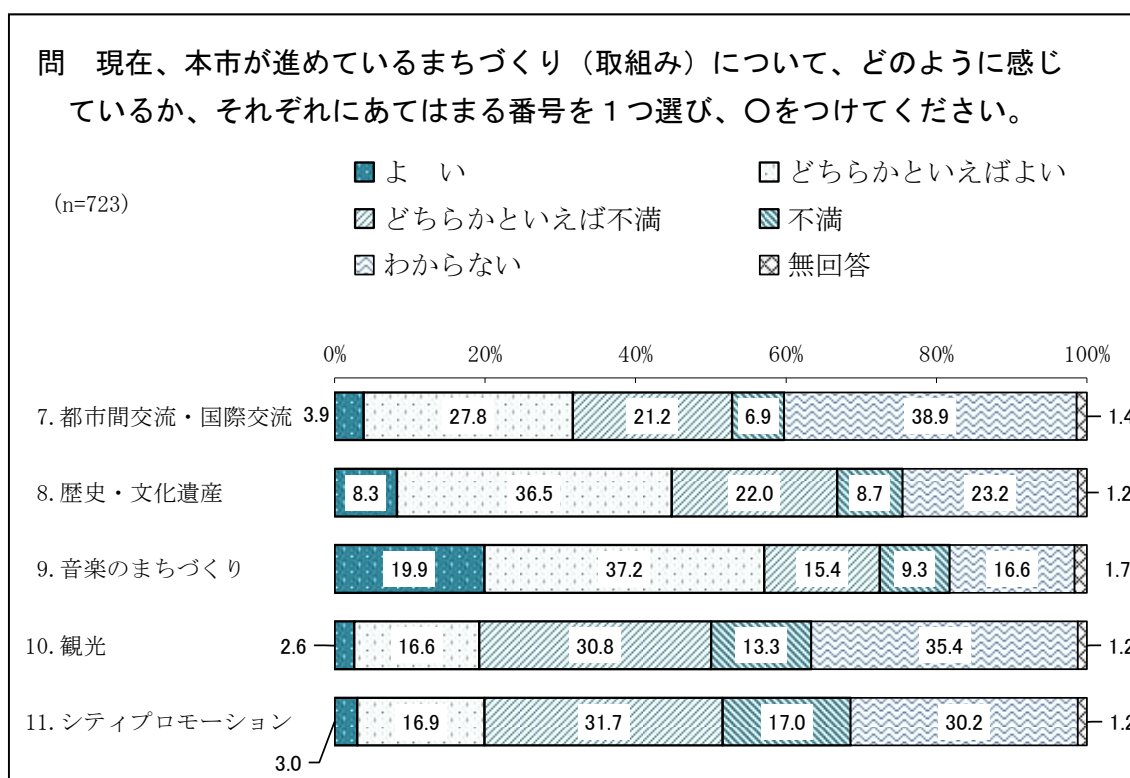


表 2-7 産業・仕事の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男性	女性
1位	産業創出・ 企業誘致 (67.8点)	特産品 ブランド化 (73.5点)
2位	起業支援 (66.7点)	地域産業 (71.9点)
3位	地域産業 (66.3点)	産業創出・ 企業誘致 (70.9点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	特産品 ブランド化 (83.1点)	特産品 ブランド化 (75.6点)	特産品 ブランド化 (73.1点)	起業支援 (69.6点)	産業創出・ 企業誘致 (70.1点)	産業創出・ 企業誘致 (70.2点)	地域産業 (74.4点)
2位	産業創出・ 企業誘致 (80.0点)	地域産業 (73.1点)	地域産業 (67.4点)	特産品 ブランド化 (69.1点)	起業支援 (69.1点)	地域産業 (67.8点)	起業支援 (72.1点)
3位	農林業 (77.1点)	産業創出・ 企業誘致 (69.0点)	起業支援 (64.8点)	産業創出・ 企業誘致 (68.4点)	特産品 ブランド化 (68.7点)	起業支援 (66.0点)	特産品 ブランド化 (71.0点)

②交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（57.1%）でした。以下、『8. 歴史・文化遺産』（44.8%）が続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（48.7%）となっています。

性別、年代別においては、全ての種別で「音楽のまちづくり」が1位となっています。

「音楽都市宣言」から13年経過し、学校音楽の全国大会での活躍により市民の認知度は高く、更に、様々なコンサートの開催を通じた鑑賞機会の提供や、東京藝術大学との連携(2016～)による人材育成事業など多様な取組みにより市民の満足の割合が高いと考えられます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図2-3参照）。

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が76.6点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（61.7点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表2-8参照）。

図 2-3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

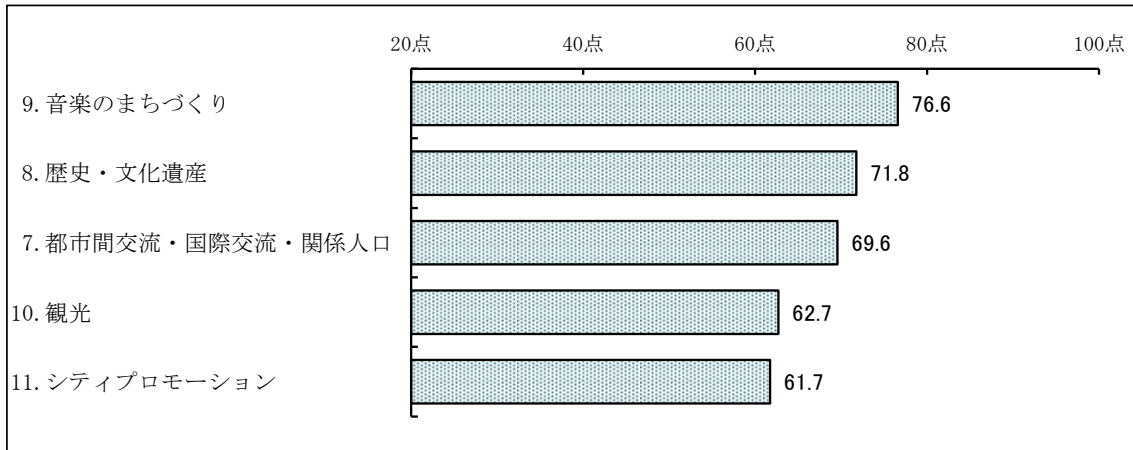


表 2-8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	音楽のまちづくり (74.7点)	音楽のまちづくり (78.0点)
2位	歴史・文化遺産 (69.6点)	歴史・文化遺産 (73.5点)
3位	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.1点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (71.0点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	音楽のまちづくり (88.6点)	音楽のまちづくり (76.4点)	音楽のまちづくり (72.5点)	音楽のまちづくり (74.1点)	音楽のまちづくり (77.1点)	音楽のまちづくり (77.3点)	音楽のまちづくり (78.4点)
2位	歴史・文化遺産 (73.8点)	歴史・文化遺産 (75.0点)	歴史・文化遺産 (72.1点)	歴史・文化遺産 (71.2点)	歴史・文化遺産 (69.9点)	歴史・文化遺産 (72.1点)	歴史・文化遺産 (71.5点)
3位	都市間交流・国際交流・関係人口 (72.9点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (74.9点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (67.2点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (70.9点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.3点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (67.9点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.9点)



図 2-4 学び育む子どもたちの未来への満足度〈平均得点〉（全体）

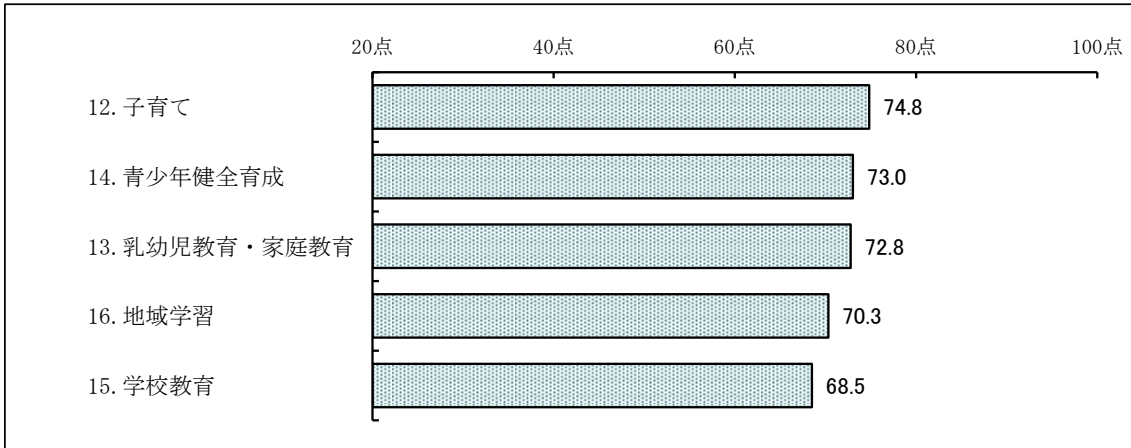


表 2-9 学び育む子どもたちの未来への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

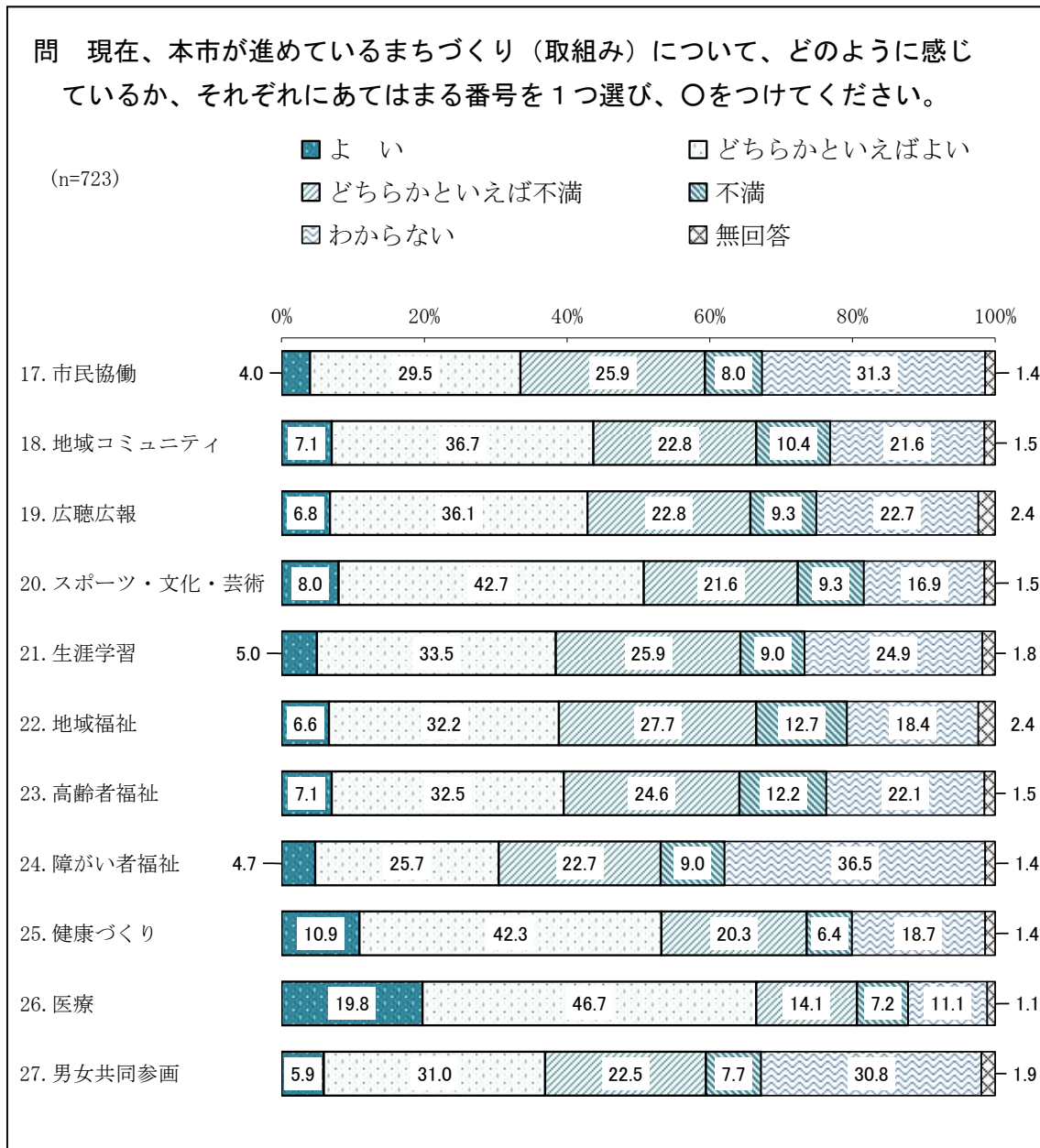
	男性	女性
1位	子育て (74.0点)	子育て (75.5点)
2位	青少年健全育成 (71.5点)	乳幼児教育・家庭教育 (74.4点)
3位	乳幼児教育・家庭教育 (70.9点)	青少年健全育成 (74.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	子育て (88.3点)	乳幼児教育・家庭教育 (77.1点)	子育て (73.1点)	子育て (74.8点)	子育て (74.9点)	子育て (72.6点)	子育て (76.8点)
2位	地域学習 (86.2点)	青少年健全育成 (76.3点)	地域学習 (72.5点)	乳幼児教育・家庭教育 (73.1点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.3点)	青少年健全育成 (72.2点)	青少年健全育成 (75.2点)
3位	青少年健全育成 (85.7点)	子育て (74.9点)	青少年健全育成 (70.7点)	青少年健全育成 (72.6点)	青少年健全育成 (69.8点)	乳幼児教育・家庭教育 (70.8点)	乳幼児教育・家庭教育 (74.9点)



④誰もが地域で輝く未来

(市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) への満足度



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』 ——



## 【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（66.5%）でした。以下、『25. 健康づくり』（53.3%）、『20. スポーツ・文化・芸術』（50.8%）が5割台で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『22. 地域福祉』（40.4%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 2-5 参照）。

平均得点をみると、『26. 医療』が 78.0 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『22. 地域福祉』（68.3 点）でした。

中でも『26. 医療』に関しては、人口 10 万人に対する、郡山市の病床数と医師・歯科医師がそれぞれ全国平均を大きく上回っており（参考「厚生労働省統計調査」）、必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制の充実への認識が高いと思われます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 2-10 参照）。

図 2-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

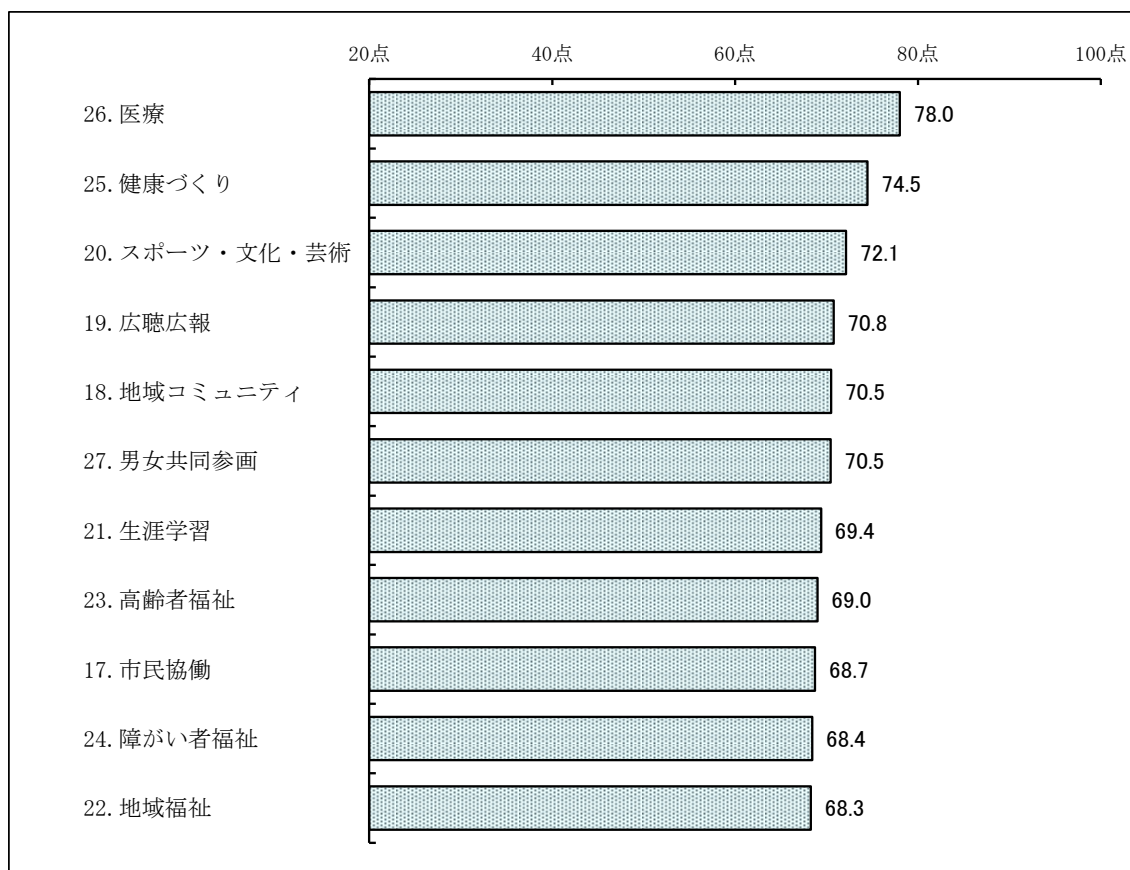


表 2-10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	医療 (77.6点)	医療 (78.4点)
2位	健康づくり (73.1点)	健康づくり (75.6点)
3位	男女共同参画 (70.9点)	スポーツ・ 文化・芸術 (74.8点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	生涯学習 (86.7点)	医療 (79.2点)	医療 (73.6点)	医療 (76.7点)	医療 (77.2点)	医療 (77.0点)	医療 (82.0点)
2位	スポーツ・ 文化・芸術 (83.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (77.1点)	地域 コミュニティ (70.7点)	健康づくり (72.5点)	健康づくり (74.9点)	健康づくり (73.7点)	健康づくり (78.7点)
3位	広聴広報 (81.7点)	障がい者福祉 (76.1点)	スポーツ・ 文化・芸術 (69.8点)	地域 コミュニティ (71.3点)	スポーツ・ 文化・芸術 (72.5点)	スポーツ・ 文化・芸術 (69.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (74.0点)



平均得点をみると、『31. 自然環境』が76.0点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』(63.8点)でした。

『31. 自然環境』に関しては、満足度は前年度と変わらず上位を維持していますが、重要度の順位が前年度調査に比べて上がっています。更なる推進が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました(表2-11参照)。

図2-6 暮らしやすいまちの未来への満足度<平均得点>(全体)

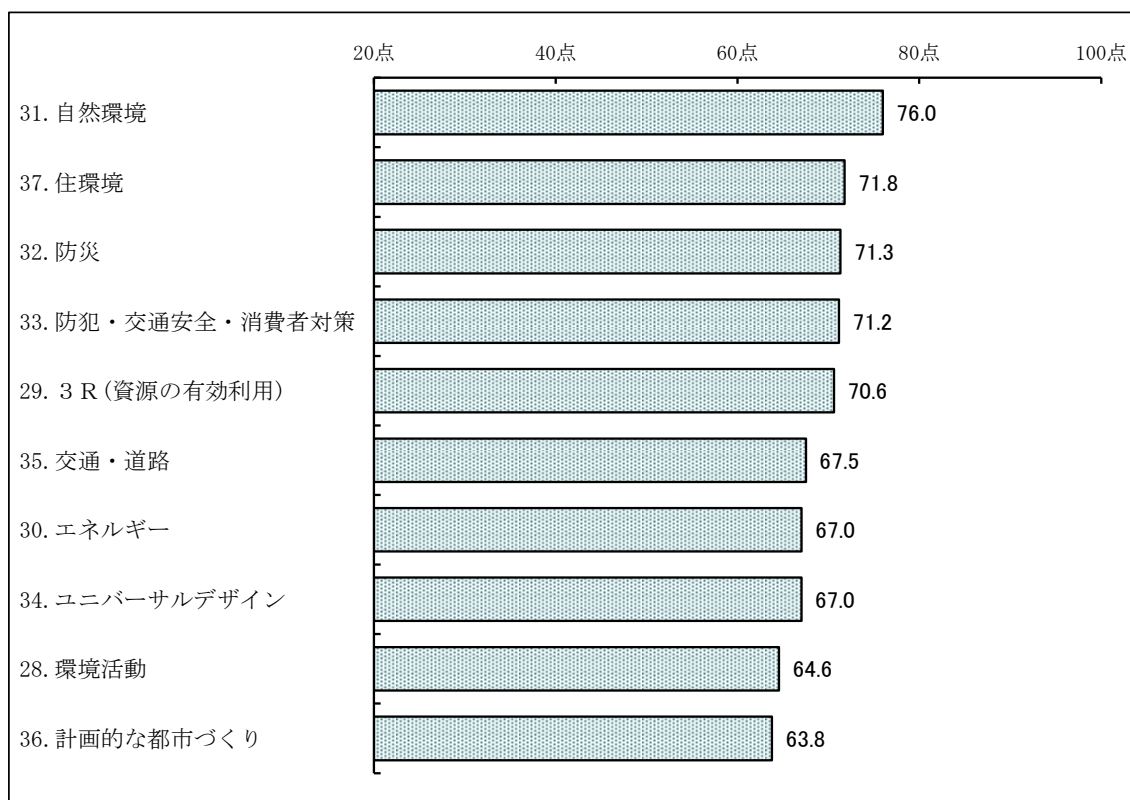
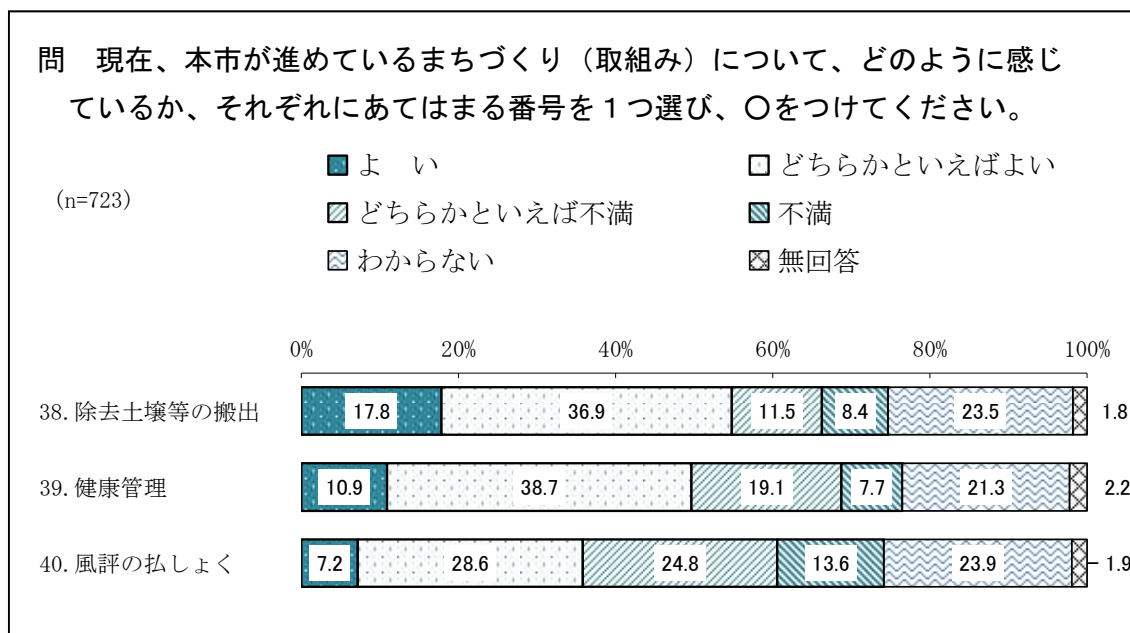


表2-11 暮らしやすいまちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	自然環境 (74.3点)	自然環境 (77.6点)
2位	住環境 (70.1点)	住環境 (73.2点)
3位	防災 (69.1点)	防災 (72.9点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	自然環境 (84.6点)	自然環境 (81.7点)	自然環境 (75.4点)	自然環境 (76.2点)	自然環境 (75.6点)	自然環境 (72.8点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (77.1点)
2位	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (83.3点)	住環境 (78.1点)	防災 (72.6点)	住環境 (70.2点)	住環境 (70.6点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (70.5点)	自然環境 (76.9点)
3位	防災 (80.0点) 住環境 (80.0点)	防災 (73.8点)	3R(資源の 有効利用) (70.7点)	防犯・ 交通安全・ 消費者対策 (69.8点)	3R(資源の 有効利用) (68.4点)	防災 (70.4点)	住環境 (74.7点)

## ⑥ 横断的取組（復興・創生の更なる推進）への満足度



### 横断的取組において

「満足」と思う人が最も多いのは『除去土壌等の搬出』

#### 【全体結果】

『横断的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『38. 除去土壌等の搬出』（54.8%）です。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『40. 風評の払しょく』（38.3%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 2-7 参照）。

平均得点をみると、『38. 除去土壌等の搬出』が 77.2 点で最も高くなっています。東日本大震災から約 10 年経過し、土壌の搬出等の作業が進み、住環境は整ってきていると考えられます。

一方で、最も低かったのは『40. 風評の払しょく』（67.9 点）でした。郡山製品の安全性の PR、販路の拡大及び観光誘客等が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 2-12 参照）。

図 2 - 7 横断的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

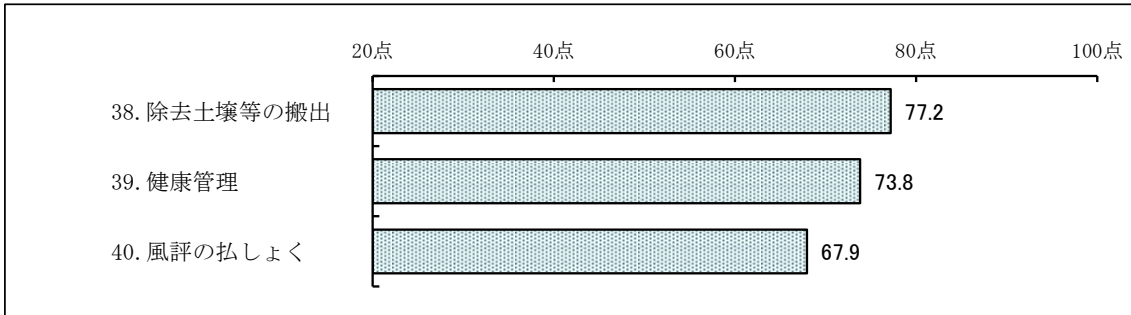


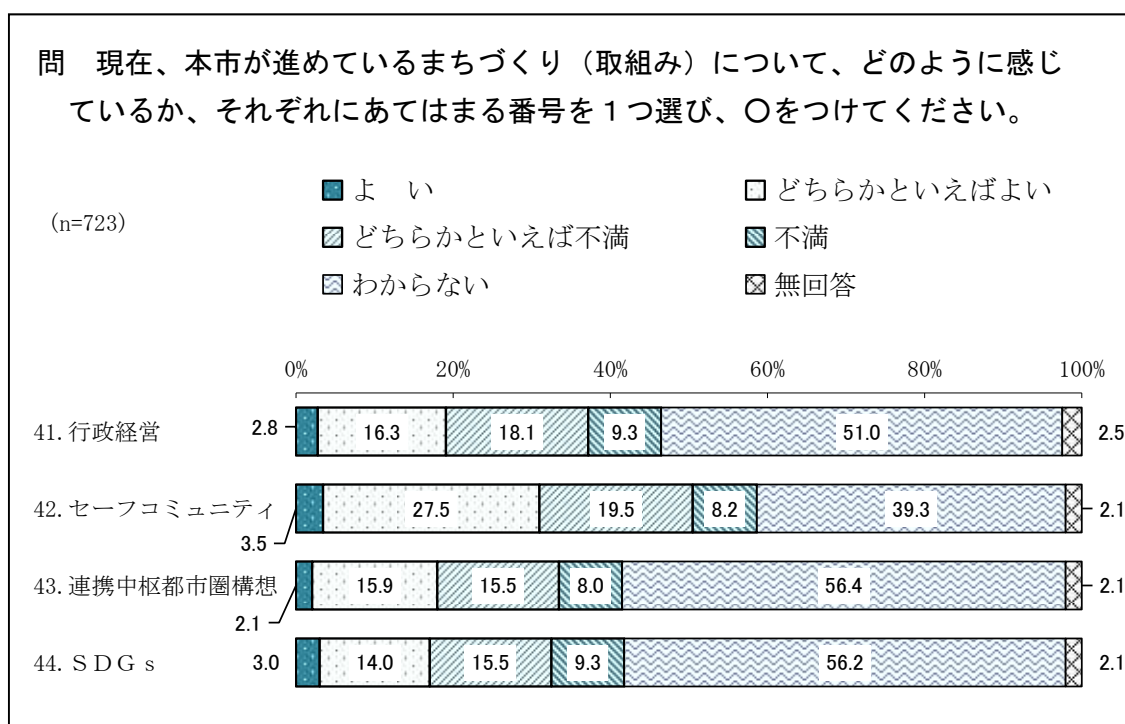
表 2 - 1 2 横断的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	除去土壌等の搬出 (78.8点)	除去土壌等の搬出 (75.8点)
2位	健康管理 (72.6点)	健康管理 (74.8点)
3位	風評の払しょく (64.5点)	風評の払しょく (70.9点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	健康管理 (82.9点)	健康管理 (76.7点)	除去土壌等の搬出 (73.3点)	除去土壌等の搬出 (76.6点)	除去土壌等の搬出 (75.9点)	除去土壌等の搬出 (75.7点)	除去土壌等の搬出 (82.9点)
2位	除去土壌等の搬出 (82.0点)	除去土壌等の搬出 (74.5点)	健康管理 (70.7点)	健康管理 (74.5点)	健康管理 (73.2点)	健康管理 (71.5点)	健康管理 (75.7点)
3位	風評の払しょく (80.0点)	風評の払しょく (71.3点)	風評の払しょく (68.5点)	風評の払しょく (68.8点)	風評の払しょく (68.2点)	風評の払しょく (64.6点)	風評の払しょく (68.0点)

## ⑦基盤的取組

(行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs) への満足度



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『セーフコミュニティ』 ——

### 【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『42. セーフコミュニティ』（31.0%）です。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのも『42. セーフコミュニティ』（27.7%）となっています。

また、『42. セーフコミュニティ』以外すべての項目において「わからない」の割合が5割以上を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

セーフコミュニティ、連携中枢都市圏構想、SDGsについては、本市が近年取り組んでいる施策ですが、実施時期が早いほど「わからない」の割合が少なくなっています。そのため、具体的な事業推進により市民の認知度を高めることが重要と思われます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 2-8 参照）。

平均得点をみると、『42. セーフコミュニティ』が69.0点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『44. SDGs』（65.2点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表 2-13 参照）。



図 2-8 基盤的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

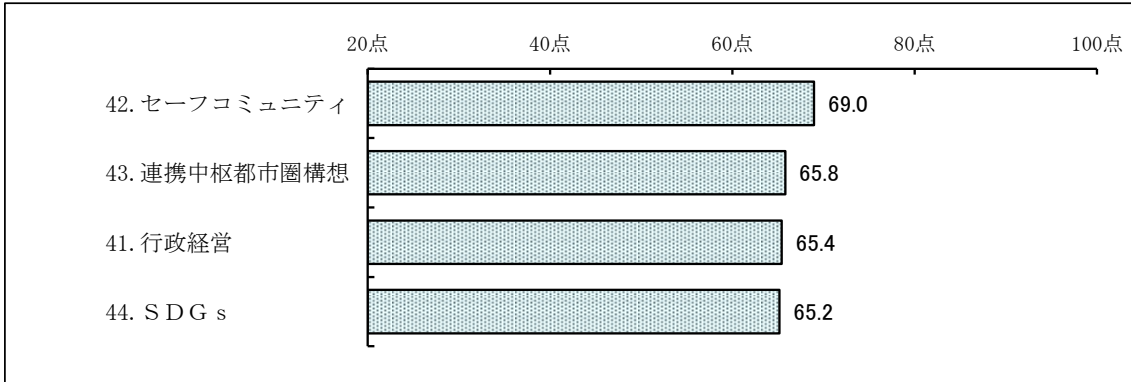


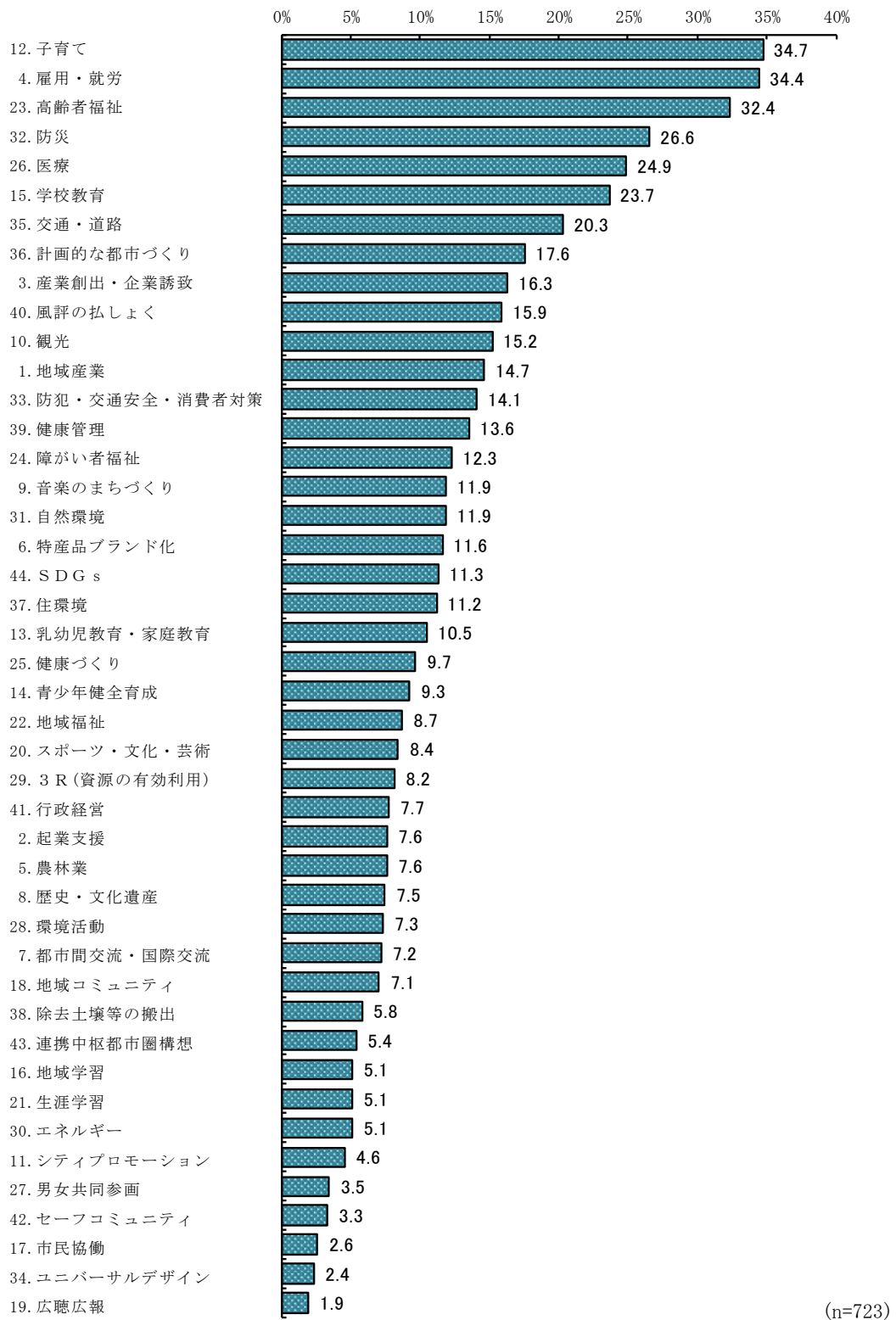
表 2-13 基盤的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	セーフコミュニティ (66.9点)	セーフコミュニティ (70.9点)
2位	連携中枢都市圏構想 (64.4点)	SDGs (68.1点)
3位	行政経営 (63.6点)	行政経営 (67.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	SDGs (82.5点)	セーフコミュニティ (71.7点)	セーフコミュニティ (66.4点)	セーフコミュニティ (69.3点)	セーフコミュニティ (70.6点)	行政経営 (66.4点)	セーフコミュニティ (69.4点)
2位	セーフコミュニティ (78.2点)	SDGs (69.2点)	SDGs (65.1点)	SDGs (66.6点)	行政経営 (65.6点)	セーフコミュニティ (66.2点)	連携中枢都市圏構想 (68.1点)
3位	行政経営 (77.8点)	連携中枢都市圏構想 (67.3点)	行政経営 (62.9点)	連携中枢都市圏構想 (66.1点)	連携中枢都市圏構想 (64.2点)	連携中枢都市圏構想 (65.2点)	行政経営 (66.4点)

(5) 分野別属性別重要度結果 (複数回答)

問 現在、本市が進めているまちづくり (取組み) について、特に重要と思われるものの番号を1~44から5つ選び、その番号に○印をつけてください。



最も重要視されている施策・事業は「子育て」

【全体結果】

『12. 子育て』(34.7%)の割合が最も高くなっています。以下、『4. 雇用・就労』(34.4%)、『23. 高齢者福祉』(32.4%)、『32. 防災』(26.6%)、『26. 医療』(24.9%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを以下に掲載しました(表2-14参照)。

表2-14 これからの取組についての重要度<性別、年代別の上位5つ>

	男性	女性
1位	子育て (34.3%)	雇用・就労 (38.2%)
2位	雇用・就労 (30.8%)	子育て (36.4%)
3位	高齢者福祉 (28.6%)	高齢者福祉 (35.1%)
4位	防災 (28.6%)	医療 (29.0%)
5位	産業創出・ 企業誘致 (23.8%)	防災 (25.6%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	雇用・就労 (43.8%)	子育て (55.2%)	子育て (57.7%)	雇用・就労 (44.3%)	雇用・就労 (45.6%)	高齢者福祉 (36.4%)	高齢者福祉 (40.1%)
2位	地域産業 (37.5%)	雇用・就労 (41.4%)	雇用・就労 (35.9%)	子育て (39.7%)	子育て (35.1%)	子育て (27.8%)	医療 (23.0%)
3位	子育て (37.5%)	防災 (32.8%)	学校教育 (33.3%)	防災 (32.8%)	防災 (32.5%)	雇用・就労 (27.2%)	雇用・就労 (22.4%)
4位	スポーツ・ 文化・芸術 (31.3%) 高齢者福祉 (31.3%)	観光 (25.9%) 高齢者福祉 (25.9%) 医療 (25.9%)	医療 (32.1%)	医療 (30.5%)	高齢者福祉 (31.6%)	防災 (22.8%)	健康管理 (21.1%)
5位	医療 (31.3%) 交通・道路 (31.3%)	風評の払しょく (25.9%)	防災 (30.8%)	学校教育 (28.2%)	医療 (28.9%)	産業創出・ 企業誘致 (22.2%)	学校教育 (20.4%)